

議会だより

この度の東日本大震災の犠牲になられた
方々に心よりお悔やみ申し上げます、
被災された皆様にお見舞い申し上げます。

- ◆平成23年度一般会計予算 2ページ
- ◆一般質問 3～9ページ
- ◆常任委員会報告 10～11ページ
- ◆予算・決算特別委員会報告 12～13ページ
- ◆特別委員会報告 14～15ページ
- ◆質疑・討論他 16～17ページ
- ◆議会の動き・編集後記 18ページ

3月定例町議会 平成23年度一般会計予算

74億4,125万6千円を可決

(前年比12.9%増)

予算総額 111億9,159万3千円

3月定例町議会は、1日から17日までの17日間の日程で開かれました。議案は予算案件25件、条例案件12件、その他案件11件の48件を審議し、すべて原案どおり可決されました。一般質問には13名がたちました。

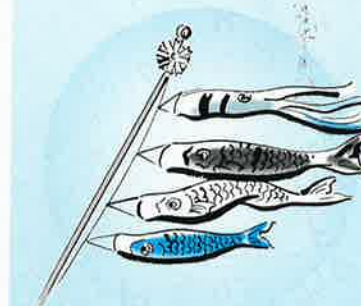
◆新年度予算

このうち新年度予算については、一般会計の総額は74億4,125万6千円、特別会計を含めた総額は111億9,159万3千円とさだめられました。

◆一般会計予算

一般会計歳入の内訳は、町民税、固定資産税などの町税43・1%、電源立地地域対策交付金など国庫支出金24・6%、県支出金17・8%などとなっています。歳出は、目的別では民生費21・9%、衛生費19・6%、

総務費17・3%、土木費10・3%などとなりました。性質別では、人件費、扶助費など義務的経費が32・7%、投資的経費は告知放送システム改修工事、し尿処理場の下水道処理場への統合工事など14・0%、その他行政費53・4%となりました。今議会の審議の特徴として、野瀬町政がすすめるコンパクトシティ構想、また難波江・西三松地系の脇坂の整備などに質疑が集中しました。詳しくは各委員会報告をご覧ください。



平成23年度 各会計予算

(単位:千円、%)

会 計 名		本年度予算額	前年度予算額	比 較	伸び率
一般会計		7,441,256	6,588,738	852,518	12.9
特 別 会 計	① 国民健康保険特別会計	1,139,483	1,045,843	93,640	9.0
	② 国民健康保険診療所特別会計	121,030	118,052	2,978	2.5
	③ 老人保健特別会計	140	2,505	△2,365	△94.4
	④ 後期高齢者医療特別会計	96,325	102,403	△6,078	△5.9
	⑤ 介護保険特別会計	772,772	733,348	39,424	5.4
	⑥ 簡易水道事業特別会計	60,374	66,551	△6,177	△9.3
	⑦ 公共下水道事業特別会計	600,617	603,625	△3,008	△0.5
	⑧ 集落排水事業特別会計	551,187	352,341	198,846	56.4
	⑨ 公有水面埋立事業特別会計	87,251	99,494	△12,243	△12.3
	⑩ 宅地分譲事業特別会計	10,707	29,577	△18,870	△63.8
計		3,439,886	3,153,740	286,146	9.1
企 業 会 計	① 国民宿舎事業特別会計	116,955	122,966	△6,011	△4.9
	② 水道事業特別会計	193,496	300,778	△107,282	△35.7
計		310,451	423,744	△113,293	△26.7
総 計		11,191,593	10,166,222	1,025,371	10.1



磯部 武史

地デジ対策は万全か

答弁 調査し個別対応も検討。

問

① デジアナ変換サービスを行うのか。

② 支援対象世帯への広報、啓発は。

③ KBS京都は放送するのか。

答

① デジアナ変換は行わない。
② 新年度、調査し、個別対応も検討。
③ KBSは4月を目処に準備中。遅くとも完全移行までに放送する。

◆光ネットの整備予定はあるか

問

新総合計画の説明の中で、光ファイバー網の基盤整備というキーワードが登場した。整備の予定はあるのか。

答

総務課長 現有線施設の耐用年数に合わせ、整備を行う案を示している。しかし、民間事業者によるサービスの提供が望ましく、実施の方向を

検討中である。

◆町長マニフェストから問う

問

農林水産業の販路の拡大について、安定供給ができないことがネックであると聞く。

CAS冷凍という最先端の冷凍技術がある。長期間鮮度を保てる冷凍技術で、安定供給やCASというブランド化にもつながる。導入する考えはないか。

訪れた町とは、来訪者に自慢できる町になることとある。

高浜町の海岸は、日本25勝に選ばれている。有名な江ノ島より上位の選である。可能性を感じるが。

答

町長 CASの優位性は認識している。まず、付加価値を付けることを検討したい。

日本25勝は、自慢できる。また、観光ポスターが美しい日本賞に選ばれた。

景観が優れていることは、他所にまねのできないことである。

来訪者に対するもてなしや雰囲気づくりを城山エリアの開発に活かしていきたい。



井ノ元 康夫

「エコ・エネルギー・コリドール総合特区」について

答弁 エコタウン構想を具体化。

問

県では嶺南地区での展開を、前提とした「エコ・エネルギー・コリドール総合特区」構想を進めている。町長の将来ビジョンの中に「クリーンエネルギーを活用した低炭素のまちづくりを推進」と言う目標がある。町としても県と先進的な取り組みと連携してまちづくりの中に取り入れたいと前回議会での説明であったが、その後の進捗状況と今後の計画について問う。

① 総合計画など他のプロジェクトとの整合性。
コンパクトシティ構想、青の里構想など。
② 住民へのコンセンサス形成
獣害を受けない安定的供給と、作業効率の良いヒートポンプハウス農業
③ 実行性のある計画具体化手法
情報収集し構想を計画、実行へ移す。
現在エコに関する専門的知識経験のある民間事業者、大学研究機関などと情報収集し、この中で出来たプランを県の検討会に提案し事業化決定されれば順次実施して行く。

答

町長 高浜町においても自然との共生がはかられた「エコタウン構想」を描いている。その中で、「コンパクトシティ関連事業」「エコビレッジ関連事業」「エコライフ関連事業」の3分野を柱にエコ施策スマート施策を次の3点で具体化したい。





横田 則孝

当初予算においての、今後の事業の在り方について

答弁 スクラップ&ビルド。

問

長引く不況により町の税収が落ち込んできている。限られた財源の中で、より一層の効果を図り事業の必要性と効率を見極める必要があると考える。既存事業を精査し、ゼロベースでの統合やスクラップ化を今後どのようにすすめられるのか、又、各委託料や補助事業についても、財政の健全化、経常経費の抑制、経費の削減などを考える上で事業評価やコスト意識を持って精査すべきである。今後の事業の在り方について問う。

答

町長 平成23年度の予算編成に当たり職員一人ひとりがこれまでの既成概念や慣習・慣例にとらわれることなく、限られた財源をより効果的に活用するため、すべての既存事業について、今一度、再点検することから始めている。

新年度より、道の駅の指定管理料を前年度比300万円減額し、民間事業者の運営ノウハウを取り入れながら、次々年度以降も指定管理料のさらなる削減を進める。

観光協会へのイベント補助金の一部を廃止し、今後は提案型の「閃き補助金」に統合し、一定の基準を設け審査して行きたい。

まちづくり活動が、町内で広く認知され、支援されることによって、持続可能なものとなることを期待している。その活動内容や成果等は、広報誌などを通じて、町民の皆さんに発信して、ご理解とご協力をお願いする。

スクラップ&ビルドの考え方により、その縮減した予算を「協働のまちづくり」のために、参加、協力していただく住民やサークル、又民間事業者の皆さんへの支援策として、補助金の予算にシフトして行きたいと考えている。



清常 光洋

まちおこし（中心市街地活性化）の現状について

答弁 具現化した「目に見える成果や事例」を判断するタイミングではない。

問

町外から招聘の副町長は、前職が経済産業省出身で「商店街の空き店舗対策を進める中心市街地活性化専門官」を務め、多くの自治体のまちづくりに関わってきた方であり、実践派、行動派でありバイタリティー溢れる人材と紹介されていた。

そして副町長自身も、就任に当たり「日村さんが来て、高浜が元気になったよ、といわれるよう全力で頑張ります」と意気込みを語っておられた。

副町長就任から約2年半を過ぎようとしているが、高浜町の中心市街地はどのように変わったのか。このことは巷間話題になっているところである。何か事例を上

答

町長

副町長の仕事は、町行政全般のマネージメントであり、一つの事業に特化してあたるといった時間的、物理的余裕はない。

中心市街地の衰退は10年以上前から起こっており、全国共通の課題である。中心市街地の活性化という課題は1年や2年で目に見える成果が出るほど簡単なものではない。衰退から活性へ、つまり「中心市街地に賑わいを取り戻すための気持ちを持つ」というメッセージを発進し、当該地域の皆さんと話を始めている段階である。



深井 久則

コンパクトシティ構想について

答弁 財源確保の協議。

問

コンパクトシティ構想の実施にあたり、この計画が子供達の将来に負担を掛けないか、具体的な収支を示して頂きたい。

答

町長 財源確保の為、国、県当局と協議をしている。

公共施設の規模も見直しの必要があり、現時点では具体的な収支は示せないが、内容が固まり次第示したい。

◆高浜病院の存続について

問

高浜病院の存続にあたり、町長の具体的な案をお聞きたい。

答

町長

国からの譲渡を受ける考えに変わりはない。譲渡の為には、

①人的医療資源の充実。

②譲渡を受ける場合の具体策の検

討。

③後継人材の手当て。

等の難問をクリアしなければならぬが、行政だけでは解決できないので、住民及び病院関係者の理解、協力をお願いしたい。

◆危機管理について

問

①ハザードマップ作成作業プロセス

答

総務課長

①従来の各種ハザードマップに土砂災害の危険箇所を明記し、総合防災ガイドブックとして町内各世帯に配布する。

②有線と無線の併用システムで町内を網羅し、災害時の緊急放送で情報伝達でき、生命、財産を災害から守る。



小幡 憲仁

高校の通学定期代の助成を

答弁

平成24年度助成開始に向けて検討する。

問

◆奨学金制度の創設について
野瀬町長マニフェストに掲げた経済的理由で進学をあきらめる学生を支援する高浜町独自の奨学金制度の創設について、町民の期待の大きい施策でありぜひとも実現すべきと考える。現時点での奨学金制度創設に向けた検討状況と今後の見通しを問う。

答

町長

高校授業料の無償化法の施行と高浜町での高校進学の際の奨学金申請の実績から、高校進学では既存制度を利用されたい。

大学進学では制度充実の要望も高まっており、奨学金創設に向け先行自治体等の事例を参考に引き続き検討する。

◆高校の通学定期助成について

問

高浜町には高校がないため通学で大きなハンディがある。県に通学費助成を要請すべき。また、県の助成の有無とは別に町独自で助成すべき。

答

教育長

県立高校への通学費援助は知事や県教育委員会に申し入れているが実現しない。今後も引き続き要望する。また、町独自の通学支援制度の必要性が高まっており平成24年度実施を目指し検討する。

◆学童保育施設の充実について

問

現在、学童保育事業を公民館で実施している。当面の措置としてはやむを得ないが、専用施設の整備が必要ではないか。

答

教育長

十分な学童保育施設ではないが、学校の空き教室を活用すべきで専用施設は考えていない。今後の利用者の増加傾向や、対象年齢の引き上げなど、本事業の動向を見極めるとともに各公民館の利用状況を踏まえ、学校の空き教室や他の施設の利用なども検討する。



勝本 繁昭

道路排水路の改修について

答弁 随時状況に応じ対応。

問 和田地区内の排水路側溝で未改修部分の施工はされるのか

答 建設整備課長

和田地区においては、本年度下記維持修繕工事にて一部施工する。今後も老朽化している道路排水路について、随時状況に応じ対応に努める。

◆車持地係の砂防・河川の進捗は

答弁 国の財政状況等による。

問 県事業の砂防工事と車持川河川改修でJR小浜線と国道27号線の横断工事はいつ頃か。

答 建設整備課長

平成23年度には2箇所の工事着手が進められている。その後、サコ谷、本流の柿木原と整備を進め、これが完成した後、護岸改修工事に着手する計画である。

◆安土埋立地から駅前道路接続は

答弁 当初の計画のとおり。

問 安土公有水面埋立も終わっているが和田駅前道路への取付はどのような計画をされているのか。

答 建設整備課長

埋立地の利用計画の見直しはされているが、そのアクセス道路については、当初の計画のとおり東は県道犬見崎和田線へ、西は県道畑・若狭和田停車場線への接続に変わりはない。

◆青戸入江の海底調査について

答弁 小浜湾全域の問題として。

問 海底に見慣れない海藻が生い茂り、赤貝の生育確認もままならないが。また、水質調査だけでなく海底質、海藻調査も願う。

答 まちづくり課長

海藻については県水産普及員が確認したが、テングサ類と同様のオゴノリのようなものである。

海底及び海藻調査の質問については県水産漁港課に確認したところ、県内沿岸の水質検査ならびに底質調査を定期的に実施している。



栗野 明雄

米のトレーサビリティ法の目的を問う

答弁 生産者が産地情報を確認。

問 昨年10月に施行された米のトレーサビリティ法の①目的、②影響、③生産者の義務は何か。④国産米の消費は伸びると考えるか。

答 まちづくり課長

①消費者が産地をわかりやすくすることで、国民の健康の保護、関連産業の健全な発展を目指す。②レストランのメニューに産地が表示されることで安心が得られる。③これまでも栽培日誌の伝票をつけているので、特に影響はない。④直接の効果はないが、関連産業の健全な発展が期待される。

◆幸福について

問 ブータンでは国民総生産より、国民総幸福量という考え方を大切にしている。国民の97%が幸福だと応えている。人の生

活では、経済生活、健康生活、家庭生活があるが、家庭生活への啓蒙活動、セーフティネットは、どの様にしているか。

答 教育長

幸福な生活は人類共通の目標であるが、幸福の価値観は、心理的な要素である。社会教育の基本は家庭教育にある。高浜町では、後援会やイベントなどを通じ感謝の心をはぐくんたりコミュニケーションの強化を図っている。

◆(株)活生タウンの今後を問う。

問 (株)活生タウンは、これからまちづくり会社として活動するが、その戦略を問う。

答 町長

株式会社意志決定が機動的であり、ビジネスとしての事業部門を担える組織にしたい。高浜の特産品開発、ヒートポンプハウス温室栽培、などの事業の母体としたい。人材確保にも努める。



井ノ上 晋雄

道路整備について

答弁 今後の課題。

◆町道南山手線の延長について

問 数十年前より計画されていた南山手線の話が中断されている。今後延長の計画等があるのか。

答 町長

これまで舞鶴市と協議を重ねてきたが、県境でもあり、重要と考えていない。

舞鶴若狭自動車道も供用されたこともあり、優先度が低い。また、関屋から多門院への協議をしたが良い返事が返っていない。

延長は今後の課題である。

◆舞鶴野原港線の取り組みについて

問 内浦地区にとつては、生活、防災の重要道路である。トンネル等を含めて抜本的改良する必要があると考えるが。

答 町長

重要道路である。順次部分

的に改良しているが充分ではない。

今後、国、県に強く要望すると共に舞鶴市と連携し粘り強く要望していく。

◆国道27号線の青葉トンネル改良整備について

問 築55年も経過し老朽化が進んでいる。また旧規格で道幅も狭く歩道もなく危険なトンネルである。早急に別ルートを考えていくべきと思うが考えは。

答 町長

老朽化したトンネルである。舞鶴市も改良について理解して互いに協議している。今後国、県に強く働きかけていく。舞鶴市と連携を図り、取り組んでいく。

◆区内道路 農道等の補修について

問 小修理等の要望陳情に対処していただきたい。

答 町長

小修理については現物支給は行いますが、地元で対処願いたい。



渡邊 孝

役場庁舎移転・改築について

答弁 築45年で老朽化。

問 役場庁舎の移転、改築計画が進められている。改築先にあきで計画を進めるのは問題ではないか。現庁舎を改修して使用するという選択肢はないのか。

①改築の目的は何か。現庁舎の問題点は何か。

②現庁舎の耐震補強工事をこそ早急にやるべきではないか。

③庁舎改築よりも、いまは町民負担の軽減に税金を使うべきではないか。

答 町長

①現庁舎は築45年が経過して老朽化がすすんでいる。庁舎も手狭で一部を保健福祉センターや教育会館に分散している。また駐車場もせまい。

②耐震補強工事費だけでも1億円がかかる。また工事期間中の仮設庁舎等の建設費も上積みされる。



高浜町役場

◆保育士の正規採用について

答弁 保育士数は国の基準に合致

問 高浜町立保育所の約3分の1が臨時保育士である。人間を育て、教育するという専門職員の身分が不安定では本人の意欲にも影響するし、子どもたちのためにもならない。町内の若者に雇用を保障し、定住を図るためにも正規職員として採用すべきではないか。

答 副町長

保育所における職員数は国で基準が定められている。本町保育所でもその基準をもとに保育士を配置しており、正職保育士は不足していない。臨時保育士はあくまでも保育補助業務である。児童数の年々減少傾向により正保育士の採用は行っていない。



山本 富夫

役場移転先の治水対策は

答弁 再度検討。

問 コンパクトシティ構想内で役場移転先の汐入地係の治水対策をどのようにするのか。

答 副町長・建設整備課長

当地は治水対策は必要と認識。南区、湯谷区汐入川の流量をサイフォン管で海に流すか、調整池に貯めるかであるが、15億円と大きな事業費がかかるので財政状況を見極め再度検討したい。

問 南山手線歩道設置（南区地係）と道路新設について。

答 建設整備課長

南区との協議の上、安全性を考慮して歩道の仮設工事では本設の道路については南区の同意がない。

問 23年度の鳥獣害対策費について万全か？ おおい町との連携？

答 まちづくり課長
前年度と比較して、追払い、畑作対策、捕獲、捕獲従事者育成費等を増額。おおい町で計画されている大型柵等の計画に対しては連携、協力体制が出来るよう検討及び協議する。

問 北陸新幹線敦賀以西ルートについて町長の考えを問う。

答 町長

近隣自治体としては若狭ルートを要望することは当然のことと認識しているが、在来線の整理、地元負担額等、ルート選定における諸条件等により総合的に判断する考えである。

問 国道27号線青葉トンネルバイパス化についての進捗状況は？

答 建設整備課長

日本海唯一の幹線道路でありながら京都府福井県境の吉阪峠にある青葉トンネルは完成以来55年と老朽化と道路幅員が狭く改良整備は優先度が高く六路谷の南ルートと蒜山付近の北ルートの検討がされている。高浜町・舞鶴市が事業化に向け結束を図る考え。



池田 康信

コンパクトシティ構想の実施体制は！

答弁 推進室を設置。

問 コンパクトシティの実施は広範多岐にわたるが、その課題と体制について問う。

答 町長

本年はコンパクトシティの基本計画を定める。課題として、
①用地関係・地権者の意向確認を踏まえ理解を得る。
②治水対策・基本計画策定と併せて計画手法を提示していく。
③道路計画等・景観、バリアフリー化等都市計画マスタープランと整合性を図る。
④財源これから検討して行く。
⑤推進室を設置。

◆関屋川の治水対策について

問 ①以前から指摘しているとおり県管理区間より上流部の荒廃は著しく降雨のたびに立竹木が流下し海岸漂着ゴミの原因に

もなっている。既存堰堤も老朽化が著しくその対策について問う。
②計画の河川応急対策工事の内容は何か。

答 建設整備課長

①関屋川の現況と重要性は十分認識している。整備計画には流域全体の自然環境や生態系にも十分配慮した計画が必要であり県当局と協議をして取り組みたい。
②この工事は関屋川と日置川の合流点下流にある頭首工を改修して洪水被害防止と用水取入樋門の改修を行うものである。

◆危機管理について

問 1月1日に日引漁港の浮防波堤の支柱が倒壊した事故処理に危機管理の認識に問題がなかったか問う。

答 副町長
①事故報告の遅れ（約2ヶ月遅れ）
②類似ケースへの管理体制・マニュアル化は

①報告の遅れは事実である
②管理は定期的に実施しているが更に関係者と協議して行く。



的場 輝夫

青戸埋立地の利活用は我が町の重要な課題

答弁 企業誘致も含め慎重に検討。

問 新規大型プロジェクトは、形式的な町民総意となっていないか。

答 町長

今日までの町民の皆様との各種の意見交換の内容を考慮して提起している。今後も各種団体・住民との意見交換を図りつつ具現化に努める。現戦略推進・関連事業等の評価・点検は、(株)活生タウン高浜に委託予定。定住促進策については、空家・空き地調査の結果を生かす方向で検討する。「観光視点によるまちづくり戦略策定支援業務」は、町の提案・三セク提案もある。

問 高齢者福祉の充実に向けての「ハートフルプラン」は、高齢者・その家族も含め、関係者の意向が尊重されるのか。高齢者

福祉に欠くことのできない個人情報との関係者への周知について、個人の了解のもとでの拡大を図るべき。

答 福祉課長・町長

医療福祉介護事業施設関係者・住民代表等での委員会の中で、前計画との継続性を勘案し策定する。個人情報については、民生委員の活動、災害時の救護時の対応を考慮し、議員の指摘をふまえ慎重に検討したい。

問 「青戸埋立地」活用委員会の立ち上げは何時か。企業誘致候補地との関連は。

答 まちづくり課長・町長

埋立地10万平方メートルの広大な土地の利用計画については、議員指摘のとおり、早々に協議会を立ち上げ、あらゆる英知を結集し、当町に最もふさわしい利活用となるようにしたい。

問 少子高齢化対策の観点から、も町内未婚者・家族の切実な悩みに応えられる体制整備を。

答 住民課長

未婚化が少子化の最大要因でもあり、的確な方策を検討する。

若狭消防組合議会報告

議員 的場 輝夫

●第154回

若狭消防組合議会定例会の報告
・会期 平成23年2月17日

3月28日

・場所 若狭消防議会会場

《上程議案》

■議案第1号

平成22年度若狭消防組合一般会計補正予算(第3号)

歳入歳出予算の総額歳入歳出それぞれ222万9千円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ12億6,880万1千円とするものである。

【全員賛成で可決】

■議案第2号

平成23年度若狭消防組合一般会計予算

予算の説明を受ける。歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ14億9,160万1千円とするものであり、特筆すべきは新たな「はしご付き消防自動車」購入予算の1億8千万円の計上である。

嶺南広域行政組合 議会報告

議員 山本 富夫

・会期 平成22年12月24日

・場所 敦賀市立図書館3階

■第3号議案

平成21年度嶺南広域行政組合一般会計歳入歳出決算認定

歳入決算額は10億2,894万円、歳出決算額は、10億2,725万円で差引165万円となった。

【慎重審議の結果、全員賛成で採択】



総務産業

常任委員会報告

委員長 栗野 明雄

- 議案第7号
平成22年度高浜町簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)
- 議案第8号
平成22年度高浜町公共下水道事業特別会計補正予算(第3号)
- 議案第9号
平成22年度高浜町集落排水事業特別会計補正予算(第2号)
- 議案第10号
平成22年度高浜町公有水面埋立事業特別会計補正予算(第2号)
- 議案第11号
平成22年度高浜町宅地分譲事業特別会計補正予算(第1号)
- 議案第12号
平成22年度高浜町水道事業特別会計補正予算(第3号)
- 議案第19号
平成23年度高浜町簡易水道事業特別会計予算
- 議案第20号
平成23年度高浜町公共下水道事業特別会計予算
- 議案第21号
平成23年度高浜町集落排水事業特別会計予算
- 議案第22号
平成23年度高浜町公有水面埋立事業特別会計予算
- 議案第23号
平成23年度高浜町宅地分譲事業特別会計予算
- 議案第24号
平成23年度高浜町国民宿舎事業特別会計予算
- 議案第25号
平成23年度高浜町水道事業特別会計予算
- 議案第26号
高浜町課(室)設置条例の一部を改正する条例
- 議案第27号
高浜町一般職の職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第28号
高浜町保健福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第29号
高浜町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第30号
高浜町特別職の職員の給与及び旅費等に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第31号
高浜町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第32号
高浜町の休日定める条例の制定
- 議案第33号
高浜町「公德心を高める」都市宣言推進委員会設置条例を廃止する条例
- 議案第34号
高浜町都市交通安全委員会設置条例を廃止する条例
- 議案第35号
高浜町漁港上屋施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第38号
高浜町海釣り桟橋及び遊歩道の指定管理者の指定
- 議案第39号
高浜町広瀬山自然公園オートキャンプ場の指定管理者の指定
- 議案第40号
はまなすパークの指定管理者の指定
- 議案第41号
高浜町道の駅の指定管理者の指定
- 議案第42号
城山駐車場の指定管理者の指定
- 議案第43号
嶺南広域行政組合規約の変更
- 議案第44号
団体営中山間地域総合整備事業(一般型)高浜地区の計画変更
- 議案第45号
土地の処分
- 佐伎治神社前の土地を(株)太平洋業へ売却する議案です。
- 全ての議案は【全員賛成で可決】

《継続中の審査事件》

請願第2号

EPA・FTAの推進路線の見直しを求める請願

【賛成者なしで不採択】

請願第6号

TTPの参加に反対する意見書の提出を求める請願

【賛成多数で採択】

厚生文教

常任委員会報告

委員長 小幡 憲仁

《審議事項》

付託案件の審査

■議案第2号

平成22年度高浜町国民健康保険特別会計補正予算(第3号)

・退職被保険者等療養給付費と退職被保険者等高額療養費の増額補正の要因について、退職被保険者数がこの1年間で67名増加していることが主な要因であること、その背景として団塊世代の大量退職者があるとの答弁があった。

■議案第3号

平成22年度高浜町国民健康保険診療所特別会計補正予算(第2号)

・質疑・討論は特になし。

■議案第4号

平成22年度高浜町老人保健特別会計補正予算(第2号)

・質疑・討論は特になし。

■議案第5号

平成22年度高浜町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)

・保険料が減額となった要因について、

広域連合議会の議決時期に新たな保険料での予算計上が間に合わなかったとの答弁があった。

■議案第6号

平成22年度高浜町介護保険特別会計補正予算(第3号)

・居宅介護費の増額補正について、高浜町の傾向として、居宅介護が伸びる一方で、施設介護は横ばいにあるとの説明があった。

■議案第14号

平成23年度高浜町国民健康保険特別会計予算

・退職被保険者の保険給付費の増加理由について、団塊世代の大量退職で対象者が増加傾向にあるとの答弁があった。

・国保被保険者の現状について保険料滞納による短期保険証ならびに、資格証明書発行数を確認した。

・疾病別傾向分析による保健指導で医療費抑制措置の必要性の指摘があった。

■議案第15号

平成23年度高浜町国民健康保険診療所特別会計予算

・診療報酬の基礎となる和田診療所の患者数について、昨年よりも多い

年間延べ11,000人を見込んで予算計上しているとの答弁があった。

■議案第16号

平成23年度高浜町老人保健特別会計予算

・質疑・討論は特になし。

■議案第17号

平成23年度高浜町後期高齢者医療特別会計予算

・保険料徴収状況についての質問があり、平成22年度はまだ年度途中で確定していないが、平成20年度、21年度とも100%徴収しているとの答弁があった。

■議案第18号

平成23年度高浜町介護保険特別会計予算

・介護保険料滞納状況を確認。収納率向上に努めるよう要請。

・要支援から軽度の要介護への移行が見られるため、今後策定する介護保険計画でこの対応策を盛り込むことを確認した。

■議案第36号

高浜町手数料条例の一部を改正する条例

・住基カードの発行と利用状況について、現時点での発行枚数、1日あ

たりの利用状況を確認。

■議案第37号

高浜町国民健康保険条例の一部を改正する条例

・質疑・討論は特になし。

■議案第38号

高浜町国民健康保険条例の一部を改正する条例

・質疑・討論は特になし。

■議案第39号

高浜町国民健康保険条例の一部を改正する条例

・質疑・討論は特になし。

■議案第40号

高浜町国民健康保険条例の一部を改正する条例

・質疑・討論は特になし。

■議案第41号

高浜町国民健康保険条例の一部を改正する条例

・質疑・討論は特になし。

■議案第42号

高浜町国民健康保険条例の一部を改正する条例

・質疑・討論は特になし。

■議案第43号

高浜町国民健康保険条例の一部を改正する条例

予算・決算特別委員会報告

委員長 小幡 憲仁

《審議事項》

◎付託案件の審査

■議案第1号

平成22年度高浜町一般会計補正
予算(第5号)

《補正予算の概要》

平成22年度一般会計予算に歳入
歳出それぞれ6億4,247万円
を追加する。

《審議の概要》

・町有地売却に関し質問があり、佐
伎治神社前の町有地を民間事業者
に独身寮建設予定地として売り払
うもので、売払い単価は、一部林地を
除いて、1㎡あたり13,500円
との答弁があった。

・子宮けいガン予防ワクチン接種助
成金に関し質問があり、今回の補正
予算でワクチン接種助成が開始さ
れる。今年度は高校1年生を対象
とし、希望者に1回当たり予防接

種費用の1割1,500円の自己
負担でワクチン接種できるように
するとの答弁があった。(ワクチンは3
回接種が必要のため自己負担の合
計額は4,500円となる。)なお、
平成23年度からは、中学校1年生
から3年生と高校1年生が対象と
なる。

・総合防災ガイドブック作成業務委
託に関し、これまで進めてきたハザ
ードマップ作成業務の関連性に関し
て質問があり、当初、間に合わない
と考えていた土砂災害の危険地域
をハザードマップに追加する作業が
間に合うことが判ったことから、全
ての危険地域を網羅した総合防災
ガイドブックを作成することに切り
替えたとの答弁があった。

・町道除雪作業委託の増額に関連し
町道除雪体制の質問があった。町内
除雪は委託業者ごとに路線が決ま
っており、国道が5センチ、県道が10
センチ、町道が15センチ(青郷と内浦
地区は10センチ)の積雪で除雪開始
することになっていることと、除雪対
象の町道路線は95路線で、これは毎

年、関係者が集まる除雪会議で決
定し、これ以外の道路でも、区長か
らの依頼があれば除雪を行うこと
を確認した。

【賛成多数で原案可決】



高浜駅の除雪

■議案第13号

平成23年度高浜町一般会計予算

《予算の概要》

平成23年度一般会計予算
歳入歳出総額
74億4,125万6千円

《審議の概要》

【総務費】

・まちづくり推進人材派遣委託に関
し、役場内で職員と二緒に業務する
ことの是非について言及があり、タイ
ムラグなしで仕事が出来るともメリ
ットも多く、秘密保持責任も課して
おり問題ないとの見解が示され。ま
た、安易に委託人に頼らず役場職
員自らが仕事を企画することが重
要だとの指摘には、委託人の業務ス
キルを学ぶことで職員のスキルが向
上するとして、暫くは委託を続ける
との方針が示された。

・脇坂整備実施設計委託について、脇
坂の事業展開の是非も含めて議論
が行なわれた。町長は「反対意見が
多いことも承知しているが、町が用
地活用を前提に県に要望した事業
であり放置はできない」との考え方
が示された。その上で平成24年度に
工事開始を決めたものではなく、工
事内容も法面を掘削するかどうか
も含めて来年度の設計の中で検討
を進める。眺望カフェやネイチャーセ
ンター等はまだ構想段階との見解
が示された。

コンパクトシティ関連で大規模事業
が多く全体事業の実現を危ぶむ指
摘があった。町長は、高浜町が直面
する全ての課題の解決策として打
ち出したのがコンパクトシティ構想
であり、個々の課題を個別に解決し
ても全体では同規模になる。また、
全事業を同時期に進める訳ではな
く、財源を確保しながら取り組む
との答弁があった。

【民生費】

・瑞祥苑運営事業に関し、施設を土
日も開放すべきとの意見提起に対
し役場内部で検討をするとの答弁
があった。

【衛生費】

・和田釈迦浜の海岸漂着物の撤去処
分事業に関し質問があり、これは県
の地域グリーンニューデール基金の
活用事業で、幅5m、長さ500mに
わたり清掃を実施するとの答弁が
あった。



和田釈迦浜の海岸漂着物

【農林水産業費】

・鳥獣害被害が広がる中、予算編成
の考え方について質問があった。

・鳥獣害対策については、追い払い、捕
獲等の従来メニューの継続と、防止柵
は畑作物も出荷先があれば対象範
囲に入れることと、追い払い用電動
ガン購入補助は農家組合員以外も
各区からの申請で補助するとの答
弁があった。

・農業ビジョン策定業務委託の業者
選定基準の質問があり、専門的な
知見と併せて高浜町の農業事情に

詳しい業者を選定するとの答弁が
あった。これから高浜町で進めるヒ
ートポンプによる水耕栽培の将来ビ
ジョンを策定することとなるが、併
せて地域に根ざした農業の底入れ
も行なうとの答弁があった。

【商工費】

・高浜型バーベキュー推進支援業務
委託に関し、「高浜型バーベキュー」の
定義の質問があり、高浜町ではバー
ベキューの需要は高いが、問題は後片
付けとゴミ処理であり、これら対応
も含めたトータルで楽しむバーベク
ューとして提案するとの答弁があった。

【教育費】

・中学生の海外派遣事業ならびに国
際交流事業に関連して、経済のグロ
ーバル化により企業は英語力の高い
人材を求めている高浜町の教育方
針として国際化の取り組みの質問
があった。

・高浜町では国際交流協会の活動が
活発化しつつあることと、来年度小
学校の英語教育の必修化に伴い英
語に堪能な助手をつけるなどの対
応をしているとの答弁があった。



海外派遣の様子

・福井大学教職員大学院受講者負
担金に関し、今後の派遣方針につ
いて質問があり、今後とも毎年2名の
派遣を継続していくとの答弁があっ
た。

・新学習指導要領で平成23年度か
ら小学校で始まる脱ゆとり教育の
対応について、平成23年度は小学校
の改訂教科書の指導書の予算を計
上したとの答弁があった。授業のコ
マ数の増加に伴い、2学期制や土曜日
登校の導入は考えていないが、授業
コマ数増加の影響等をチェックする
との答弁があった。

【賛成多数で原案可決】

原子力対策

特別委員会報告

委員長 的場 輝夫

●21年度6月には、プルサーマル計画の進捗状況若狭湾エネルギー拠点化計画について若狭湾エネルギー研究センター専務・高浜町岡本課長等を招聘し、説明を受け質疑意見交換。

●6月には、第1回関西電力原発立地町議会連絡協議会総会が、城山荘で開催され、会長に高浜的場副会長に美浜竹仲・大飯田中の各委員長が、理事は高浜からは栗野池田等の新年度役員・新年度計画・予算案の承認が行われた。

●9月には、高浜発電所所長・副所長等と高浜原発にて、地元雇用の充実と原発施設の安全保安対策の確立について意見交換。

●11月には、関原協の役員9名と議事事務局3名で大阪の関電本社に立地3町議会の要望（高経年化対策の充実強化・立地町に軸足を据え

た地域振興策の充実・耐震安全性の強化等）を強く伝えた。

●22年1月には、県原協（敦賀・美浜・大飯・高浜）三役と理事で県議会議長・県副知事に対し、要望書（高経年化対策・避難道路・避難施設・電源三法交付金の充実強化・実態に即した固定資産税の延長等）を提出

●民主党地域戦略局に対して県原協三役等により要望書（高経年化対策・避難道路・避難施設・電源三法交付金の充実強化・実態に即した固定資産税の延長等）の提出。

●3月には、国より資源エネルギー庁・文部科学省を招聘し、今後の国の核燃料サイクル政策の説明を受け、意見交換。

●8月には、原子力研究開発機構より招聘し、「もんじゅ」の現況・原子力政策における位置付け等の説明及び炉内中継装置の落下事故について質疑。

●平成23年には、電源立地に伴う

関連交付金の詳細について、町より説明を受け質疑、東北地方太平洋沖地震による福島原発の状況について関電からの説明の後質疑。

人年金・健康保険福祉施設整理機構（RFO）の2年間延長を決定し、社会保険病院の先行きは益々不透明となり、地域医療対策をすすめていくうえで大きな障害となっている。

地域医療対策

特別委員会報告

委員長 福永 広子

住民が安心して生活が送れるよう高浜町独自の地域医療確立を目指し、安定した医療環境を提供していく為に「地域医療対策特別委員会」を立ち上げ、議長を除く議員全員が委員になった。

まず最初に行ったのは、現状の把握である。町内の医療機関への二一近隣の医療機関との連携と問題点、そして住民の医療に対する危機意識等です。このように現状把握をしたうえで今後の方針を決めてきた。

そうした中で、国が「独立行政法

しかし、平成21年4月に市町村単独としては全国初となる、福井大学と寄附講座「地域プライマリケア講座」を設立し、地域医療再生に向けて大きく動きだした。

委員会もその動きに連動して合同委員会への参加や行政との情報の共有化を図り、また、新しく設立された「たかはま地域医療サポーター」との意見交換を行った。

こうした活動のなかで委員会が果たすべき役割が明確になり、行政・医療機関・住民との連携を深めることができた。

この委員会は終了するが、地域医療はまだ始まったばかりである。国の動向を視野に入れたとしても、高浜町に必要な地域医療体制の整備を図るために努力し、新しい議会においても協力体制をとられるよう希望して「地域医療対策特別委員会」の報告とする。

議会改革調査

特別委員会報告

委員長 的場 輝夫

●平成21年9月定例議会において高浜町議会、議会改革調査特別委員会の設置に関する決議が可決され、委員長に的場、副委員長に西出が互選により選出された。「本委員会の運営については、議会に関わる全ての課題について十分な審議を尽くし、大方の賛同を得られれば、本委員会提案の発意として本会議に提起するが、それ以外の課題については議員の自由判断とする。」との委員長提案が了承された。

●21年度の町会議員の年末賞与について、委員長より「今回限りの扱いとして、0・15ヶ月の減額」の提案を行い審議を尽くしたが、大方の合意に至らず6月賞与の削減にむけ、近隣議会と調整する事とした。

●12月政務調査費制度の導入について慎重に審議をつくした結果大方の合意に至り、理事者との調整を行う事となった。

●政務調査費制度の導入については、最終的に2常任委員会の視察研修は残し、5特別委員会の視察研修は原則無くし、その経費を政務調査費に振り替え、議員個々人の資質向上にむけ、有効活用を図る事とし、理事者提案で議会上程することで大方の賛同をえて、1月25日の議会臨時会で採択されました。

●2月には議員定数削減について12日、24日の両日集中審議を行ったが大方の賛同を得られず、審議終了となりましたが、3月定例議会において「定数16人を14人」に改める議員発議が上程され賛成多数にて採択された。

●6月には、議会テレビ放映の拡大・夜間休日の議会開催について審議したが、継続論議となり、9月、12月と審議したが、本会議場以外の委員会等の放映には、機材の調達費用1,500万円の費用等がかかることもあり今回は見送りとした。

●夜間休日の議会開催・議員報酬・会派制導入は見送り。議員年金に

鳥獣害防止対策調査

特別委員会報告

委員長 山本 富夫

については、国会の動きや世論の趨勢から廃止については「やむをえない」との意見が大勢となりました。以上が1年間の主な活動報告である。

中間報告については12月議会で報告済みで省略。委員会最終メとして、平成23年度鳥獣害防止予算19,751千円についてそれぞれ

の予算項目について委員会で審査・審議した状況・対策がどのように反映されているか再確認した。委員会では、今後、益々増加傾向にある。本調査中に立ち上がった獣害追払隊34グループをはじめ、街中、追払隊として結成された湯谷区シルバー人材センターなど、全町上げた取り組みがスタートできたことは、活動の成果として対策推進する上で大きな力となり、自助、共助、公助としての二役を担うものと確認した。委員会としての申し送りとして、任期内



鹿の捕獲装置を視察

での当委員会は解散と成りますが、4月改選後において引き続き委員会設置を強く要望することを委員会全員の意見として申し述べ当委員会を終了した。

質疑・討論

議案第1号

平成22年度高浜町一般会計補正予算
(第5号)

質疑

磯部 武史議員

問 漁業用燃油高騰対策助成制度は、再び80円を超えた場合、補正で対応するということであつた。

現在、80円を超えた価格で推移しているが対応はされるのか。

答 まちづくり課長

予算編成時は80円に達しておらず予算形状していないが、23年度後半に補正予算で対応する。

議案第13号

平成23年度高浜町一般会計予算

質疑

小幡 憲仁議員

問 協坂整備実施設計予算が計上されているが、設計対象となる工事内容と実施時期を問う。特に再度、法面を重機で掘削することになるのか。

答 町長

森林公園を整備するための設計予算であるが、実施時期は未定である。また、法面の掘削もまだ決めた訳ではなく来年度の設計の中で検討する。

議案第20号

平成23年度高浜町公共下水道事業特別会計予算

質疑

栗野 明雄議員

問 ゆりが丘地区の下水道は計画がないが、しないつもりか。

答 上下水道課長

平成21年に区域に入れた。下水管が入っていないので平成26年以降に着工になる。

議案第21号

平成23年度高浜町集落排水事業特別会計予算

質疑

小幡 憲仁議員

問 下、宮尾地区の集落排水の設計費について、集落排水方式と浄化槽による整備とのコスト比較は。

答 上下水道課長

国が作成した経済比較マニュアルで試算した結果、集落排水で実施した方が有利であるとの結果が出ている。

議案第13号

平成23年度高浜町一般会計予算

反対討論

渡辺 孝議員

歳入では、原発関連財源が全体の49・8%と約半分を占め、原発にたよる不健全で不安定な財政である。歳出では、①高浜原発におけるプルサーマルも推

進している。

②役場庁舎の移転、改築計画に反対。

③協坂の公園化は急ぐべきではない。

④同和対策事業は終了すべき

賛成討論

栗野 明雄議員

審議を通じて感じたことを伝えます。

町長の意図と、課長担当者との意識の乖離が見られ議論が錯綜した。意思の統一を図って頂きたい。事業が広がりすぎの面があるので、着実な実行に向けてテンポを落とす必要を感じます。

協坂の件など、町長の意図を確認したので賛成とします。

賛成討論

的場 輝夫議員

原発関連からの収入・支出について認められないとの反対意見については、町財政の現状を無視するものである。福島原発の惨状から、原発の安全神話は崩壊し、今後抜本的対策が求められるが、核燃料サイクル交付金等は使わなければ没収であり、当町の将来に必要な不可欠の事業に活用するのは当然である。役場の建替えは障害者に優しく町民の福祉・安全の拠点として、教育会館・高浜病院と連携した事業として必要最小限度の建替え整備は必要である。協坂・城山一帯の整備は積年の課題であり

町民の意向を最大限反映した事業が前提なら賛成である。

議案第22号

平成23年度高浜町公有水面埋立事業特別会計予算

反対討論

渡辺 孝議員

青戸入江の埋立事業は今後長きにわたって借金返済が続く。むだで大きな自然破壊である。

議案第25号

平成23年度高浜町水道事業特別会計予算

反対討論

渡辺 孝議員

新年度から関西電力に日糧1、400トンの上水道を運転用水として供給することとした。水源地である小和田地係などの地下水に大きな影響を与える恐れがある。

議案第45号

土地の処分

反対討論

渡辺 孝議員

佐伎治神社北川に隣接する町有地、6、737平方メートルを民間に売却しようとするものである。将来的に有効に活用できるものであり、売却すべきではない。

提出者

議会運営委員長 西出 秀雄

発委第1号

高浜町議会委員会条例の一部を改正する条例

●第2条中「8人」を「7人」に改め、第2号の次に次の2号を加える。

(3) 予算決算常任委員会13人
予算決算関係

●第11条の見出し及び同条第2項中「議会運営委員及び特別委員」を「委員」に改める。

◎附則 この条例は次の一般選挙により選出される議員の任期が始まる日から施行する。

発委第2号

議会会議規則の一部を改正する規則

●第10条中「日曜日及び休日」を「町の休日」に改める。

◎附則 この規則は公布の日から施行する。

発委第1号、2号【全員賛成で可決】

提出者

総務産業常任委員長 栗野 明雄

発委第3号

TPPの参加に反対する意見書の提出

菅首相は、「アジア太平洋貿易圏の構築をめざす」と表明し、TPPへの参加を検討している。

これは、原則として全ての品目の関税を撤廃する協定で、TPPへ参加すると、食糧自給率は14%に、米の生産量は90%減、砂糖、小麦は、ほぼ壊滅する。実質GDPが7.9兆円、雇用が340万人減少すると試算される。

重要な農産品が例外なしに関税が撤廃されれば、日本農業と地域経済、国民経済に与える影響はきわめて甚大である。

食糧自給率と、TPP交渉への参加は、絶対に両立しない。今求められることは食料の外国依存と決別することである。

よって「環太平洋戦略的経済連携協定」に参加しないことを求め意見書を提出する。

提出先は、内閣総理大臣他各関係大臣である。

4年間ありがとうございました。



議会の動き

1月 6日	消防出初式
9日	高浜町成人式
14日	知事との行政懇談会
27日	第25回人権啓発研究集会
29日	文化財火災防ぎょ訓練
2月 4日	平成22年度嶺南市町議長会要望
5日	部落解放同盟福井県連合会2011年旗開き
16日	関原協研修会
17日	若狭消防議会 定例会
18日	嶺南広域行政組合議会代表者会議
25日	第62回福井県町村議会議長会定期総会
26日	第22回「たかはまシルバーコンベンション」
3月 1日	3月定例会
11日	高浜中学校卒業証書授与式

編集後記

東日本大震災で犠牲になられた方々に、深い哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

一日も早い復興をお祈りいたします。議会と行政が協力して、安全で安心して暮らせる町づくりをめざして全力で取りくんでいきます。

また、議会だよりも「わかりやすく、読みやすい」をめざして取り組みます。今後とも、町民皆様のご理解とご指導を、よろしくお願い致します。

広報特別委員会

文責 西出 秀雄

委員長 渡邊 孝

副委員長 横田 則孝

委員 的場 輝夫

西出 秀雄

栗野 明雄

小幡 憲仁